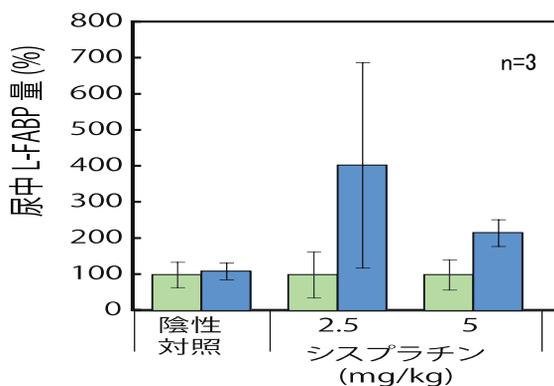
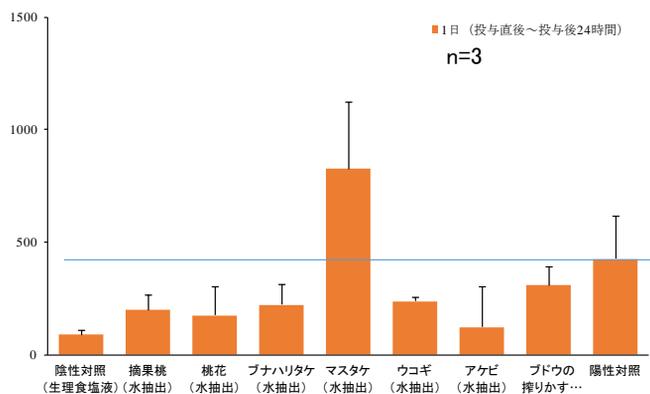


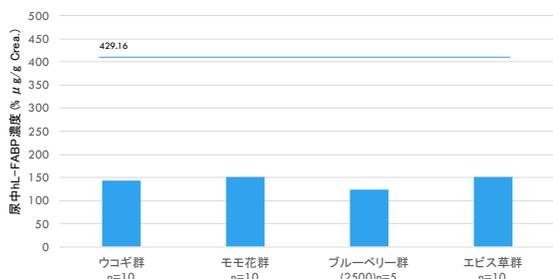
成果の概要



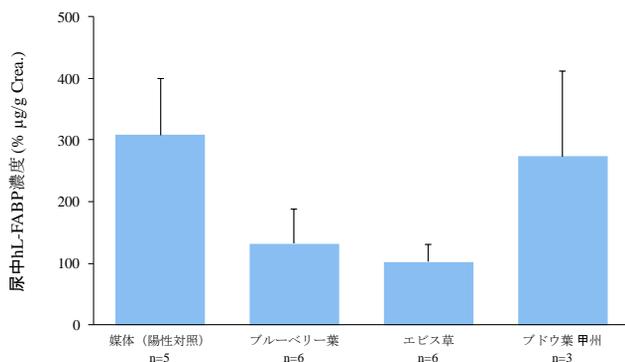
惹起物質を検討したところ、シスプラチン2.5 mg/kgが適していると判断した。(5mg/kgでは死亡例もあった)



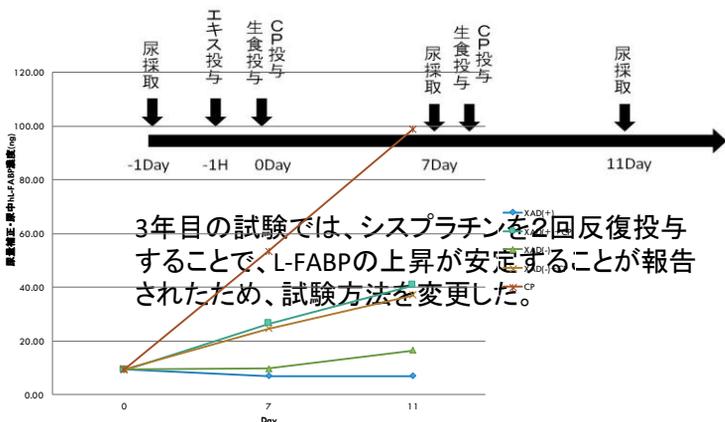
有効性を確認したところ、桃花、アケビ、ウコギなどに有効性が確認された。



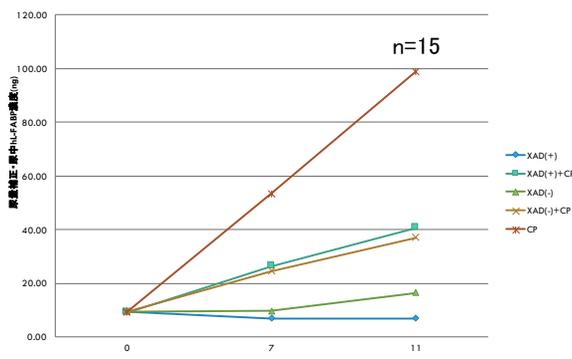
試験マウス数を増加させ、確認したところ、いずれの区も効果があることが確認された。



シスプラチンに反応したマウスを選抜し、有効性を確認したところ、ブルーベリー、エビス草では、有効性が確認された。



3年目の試験では、シスプラチンを2回反復投与することで、L-FABPの上昇が安定することが報告されたため、試験方法を変更した。



変更したシステムで有効性を確認したところ、ブルーベリー葉には有効性が確認された。

以上の結果より、hL-FABPの分泌量に及ぼす、植物エキス投与の影響について検討したところ、ブルーベリー水抽出エキス末には、有効性があることが判明した。また、ウコギ、エビス草もhL-FABPを下げる働きが確認された。